



Dr. 林の 足のお悩み 相談室

エコノミー症候群 深部静脈血栓症(DVT)

ることがあります。正式には「深部静脈血栓症(DVT)」と呼ばれる、脚の深部の静脈に血栓ができて、それが肺に回ると死んでしまう怖い病気です。

アメリカでは毎年、1000人に1人がDVTを発症し、入院されるケースは毎年60万件にも上ります。また、約20人に1人が生涯でDVTになるとい

統計が出ています。治療が遅れ、血栓が脚の静脈から肺に渡ると致命症ですが、正しい知識があれば、予防できるほか、早期に病院へ行くことで一命を取り留められる病気です。

機内では、よく水分を補給

治療が遅

れ、血栓が脚の静脈から肺に渡ると致命症ですが、正しい知識があれば、予防できるほか、早期に病院へ行くことで一命を取り留められる病気です。

発症しやすいのは、長旅(定義は4時間以上)される方だけでなく、妊婦、術後の方、高齢(40歳以上)の方、3日以上寝たきりの方、避妊ピルの使用

者、タバコ喫煙者、下肢骨折などのけがを負った方(特に股関節骨折は50%の高確率でDVTを発症)、ガンなどの病気で血が固まりやすくなっている方、過去にDVTになったことがある方です。

兆候としては通常、片脚(ひざ下)だけが赤く腫れ、表面の静脈が静脈瘤(りゅう)のように

投与されます。治療開始後は、脚を心臓より上に上げても構いません。

予防としては、危険因子を減らすことです。私のオフィスでは、足のむくみや疲れ、血栓障害の予防に効果を発揮する「医療用弾力性ストッキング」をお勧めしています。脚のサイズを測定し、一人ひとりがきちんと合った強さのストッキングを使用すること

に、ほこほこと浮き上がります。この時にふくらはぎをマッサージしたり、脚を心臓より高く上げて腫れをとろうとすると、逆に血栓が肺に上がるのを促します。ですので、それは避けて直ぐに病院に行くようにします。

病院では脚に超音波を当て、血栓が深部にあれば、一晩入院をして血をサラサラにする薬が

とで、致命症にもなりかねない「エコノミー症候群」は予防できます。

男性用に「弾力性ソックス」もあります。また機内では、よく水分を補給し、第2の心臓である「ふくらはぎ」を強くマッサージしたり、歩き回ることです。

「エコノミー症候群」のことを聞いたのですが、一体どんな病気なのでしょう？ また、予防法や飛行機の中でできることはありますか？

A..「エコノミー症候群」は俗名で、エコノミークラスに乗る人だけがなる病気ではなく、ビジネスクラスに乗っても、長距離電車やバスの旅でも発症す

る人がいます。正式には「深部静脈血栓症(DVT)」と呼ばれる、脚の深部の静脈に血栓ができて、それが肺に回ると死んでしまう怖い病気です。アメリカでは毎年、1000人に1人がDVTを発症し、入院されるケースは毎年60万件にも上ります。また、約20人に1人が生涯でDVTになるとい統計が出ています。治療が遅れ、血栓が脚の静脈から肺に渡ると致命症ですが、正しい知識があれば、予防できるほか、早期に病院へ行くことで一命を取り留められる病気です。発症しやすいのは、長旅(定義は4時間以上)される方だけでなく、妊婦、術後の方、高齢(40歳以上)の方、3日以上寝たきりの方、避妊ピルの使用